

新西市民病院整備基本方針（案）
～市街地西部における中核病院の再整備～

令和3年6月

神戸市

1	はじめに	1
2	西市民病院の現状と課題	2
	(1) 病院概要	2
	(2) 施設の状況と課題	3
	(3) 診療実績	3
	(4) 患者居住地	4
	(5) 主な役割	4
3	新病院のコンセプト・基本方針	5
	(1) コンセプト	5
	(2) 担うべき役割・機能	5
	(3) 必要な規模	6
4	建設予定地	7
5	今後の検討事項	10
6	スケジュール（予定）	10

1 はじめに

神戸市立医療センター西市民病院（以下「西市民病院」という。）は、昭和45年1月に現在の位置に開院し、施設の増改築等を繰り返しながら地域の医療需要を踏まえた対応を実施してきましたが、今後の医療技術の進歩等への対応においては施設が狭隘化していることに加え、一部の建物では竣工から約30年が経過するなど施設の老朽化も課題となっています。

今後、人口減少や高齢化の進展及び外国人数の増加等が予測される中で、西市民病院が市街地西部（兵庫区・長田区・須磨区本区）の中核病院として、どのような役割を担っていくべきか方向性を示していくことが必要です。

このような経緯のもと、令和2年8月から5回にわたり「西市民病院（市街地西部の中核病院）のあり方検討に係る有識者会議」を開催し、学識経験者、医療関係者、市民病院関係者、地元関係者等の委員により、本市の医療の現状や動向、西市民病院が抱える課題等を踏まえ、市街地西部の中核病院としてのあり方について検討を重ねてきました。その結果、今後も市街地西部の中核病院としての役割を果たしていくためには、移転新築による再整備が望ましいというご意見をいただきました。

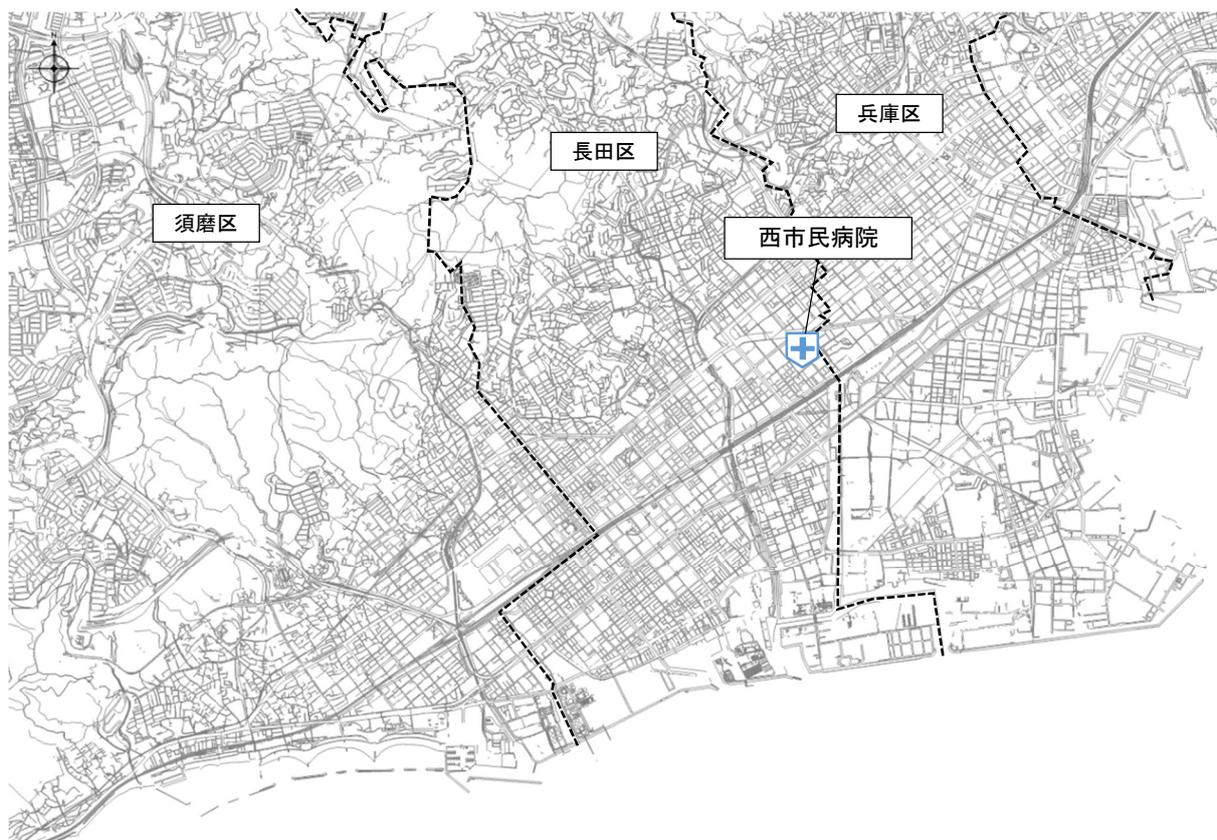
「新西市民病院整備基本方針（案）」は、有識者会議から提出された報告書の内容を踏まえ、西市民病院の再整備について、本市の基本的な考え方を整理したものです。

2 西市民病院の現状と課題

(1) 病院概要

- ・所在地 : 神戸市長田区一番町2丁目4番地
- ・敷地面積 : 7,244 m²
- ・延床面積 : 28,813 m²
- ・病床数 : 358床 (うち救急9床、HCU7床、身体合併4床、未熟児2床)
- ・診療科目 : 27診療科

位置図



※ 区境は参考

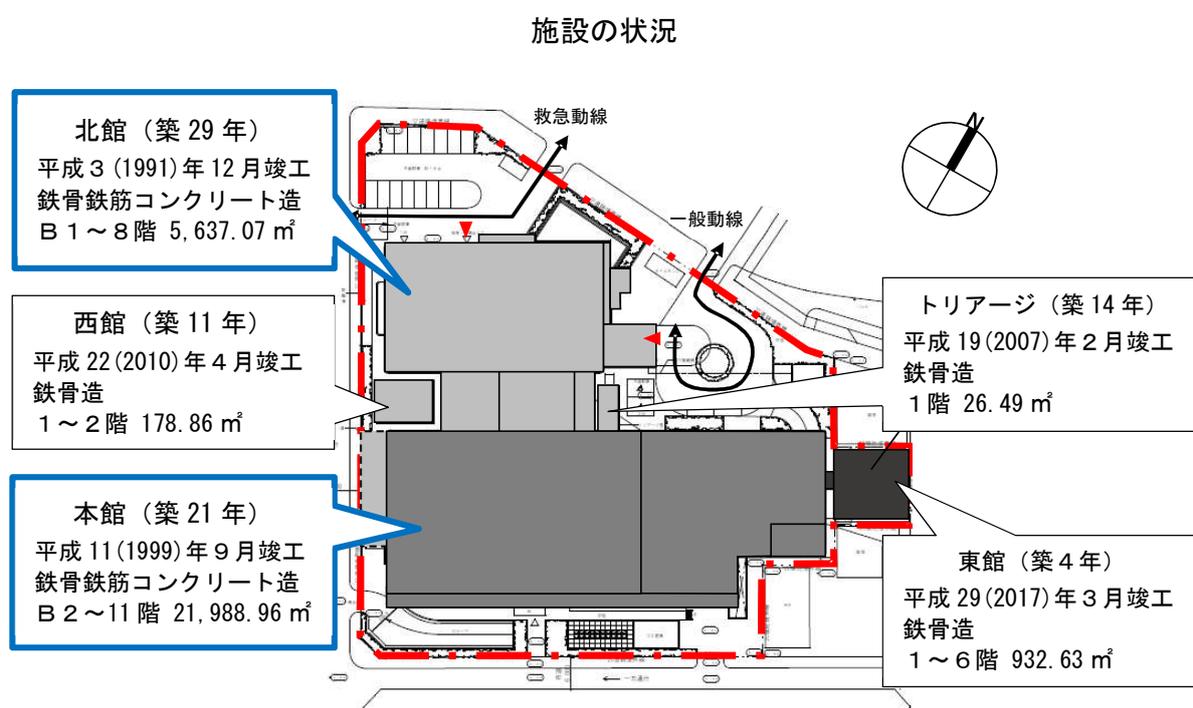
外観写真



(2) 施設の状況と課題

西市民病院は、阪神・淡路大震災前から施設の増改築等を繰り返しながら、地域の医療需要を踏まえた対応を実施してきましたが、特に手術室や救急外来等の主要な機能がある北館は築29年を迎え、配管設備を中心に老朽化が進んでいます。

また、近年の医療の高度化・複雑化への対応のため、建物の増改築や職員の増員を進めてきましたが、敷地内に建物を増築する空地がなく、容積率もほぼ上限に達していることから現状以上の延床面積の確保が難しくなっています。そのため診療に必要な高度医療機器等を導入するスペースもなく、政策的医療（救急、小児・周産期、感染症・災害）を含めた医療ニーズへの対応が困難な状況にあり、災害時や感染症対応時などの機能確保にも課題があります。



(3) 診療実績

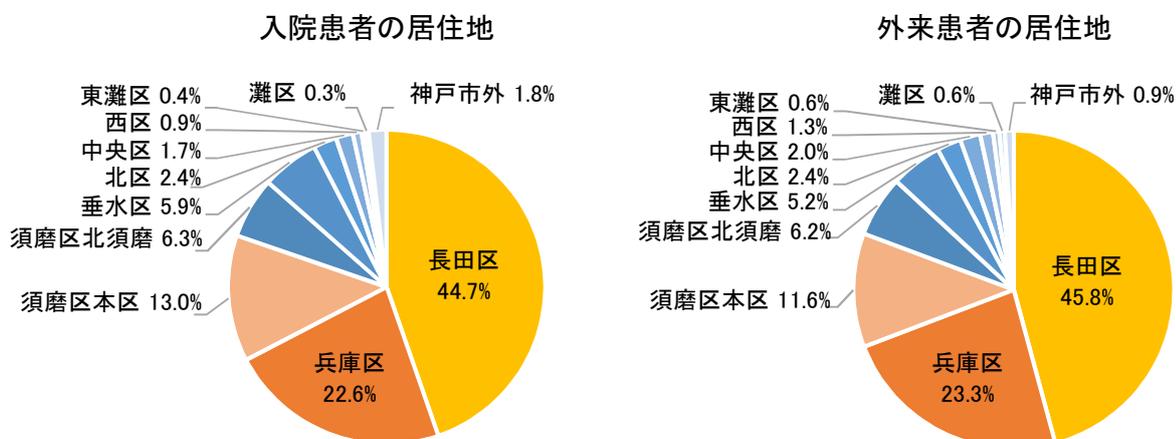
西市民病院の診療実績は上昇傾向にあり、市街地西部の中核病院として多くの患者を受け入れています。

項目	令和2年度	令和元年度	平成30年度	平成29年度
入院患者数	96,039人 (263.1人/日)	116,412人 (318.1人/日)	115,418人 (316.2人/日)	114,870人 (314.7人/日)
外来患者数	183,159人 (753.7人/日)	211,662人 (881.9人/日)	201,889人 (827.4人/日)	202,873人 (831.4人/日)
救急患者総数	12,585人 (34.5人/日)	15,710人 (42.9人/日)	15,009人 (41.1人/日)	13,967人 (38.3人/日)

※ 令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響により減少

(4) 患者居住地

西市民病院の患者の約80%が市街地西部に居住し、さらに区別で見ると約45%が長田区となっており、地域密着型の病院であることが分かります。



※ 平成30年度実績

(5) 主な役割

西市民病院は、市街地西部の中核病院として、がんをはじめとして安全で質の高い急性期医療を提供するとともに、政策的医療等において以下のような役割を担っています。

項目	内容
救急医療	・ 毎日24時間体制で2次救急に対応 (市街地西部で救急車受入れ件数最多)
小児医療	・ 市街地西部唯一の小児病床を持ち、小児2次救急に対応
周産期医療	・ 市街地西部唯一の周産期対応総合病院 ・ 正常分娩を中心にハイリスク妊娠・ハイリスク分娩等へ対応
災害医療	・ 長田区内で唯一の災害対応病院
認知症患者に対する医療	・ 認知症疾患医療センターとして、認知症進行予防から地域生活の維持まで必要な医療を提供
生活習慣病患者への取り組み	・ 生活習慣病患者に対する3次予防から2次予防の取り組み ・ 市民を対象とした各種教室を開催
その他	・ 地域医療支援病院、がん拠点病院に準じる病院等

また、新型コロナウイルス感染症への対応においては、中央市民病院が重症・中等症患者対応、西市民病院及び西神戸医療センターが中等症・軽症患者対応を行い、神戸市内の入院患者の約5割（令和3年5月7日時点）を市民病院3病院で受け入れており、市民病院としての役割を果たしています。

3 新病院のコンセプト・基本方針

(1) コンセプト

① 救急医療、感染症・災害医療の強化

神戸市全体の3次救急を補完するため、市街地西部において、より高度な急性期医療を提供するとともに、新興感染症・災害対応の機能を強化します。

② 地域包括ケアシステムの推進

地域医療機関との連携及び中核病院としての役割を強化し、地域内で診療を受ける割合（受療の完結率）を高めることで、住民に切れ目なく必要な医療を提供します。

③ まちづくりや地域活性化に寄与

公共空間との一体的な整備や周辺施設との機能連携により、人々が交流できる憩いの場として、にぎわいのあるまちづくりや地域活性化に寄与します。

(2) 担うべき役割・機能

新病院は、なくてはならない社会インフラとして、あらゆる世代の住民に対して安全で質の高い急性期医療や、救急医療、小児・周産期医療、感染症・災害医療などの政策的医療を提供し、市街地西部における中核病院としての役割を果たし続けます。

市街地西部の中核病院として総合的な診療機能を向上させるため、認知症や糖尿病等生活習慣病への対応などの現在の役割を維持するとともに、以下の主な診療機能を強化します。

項目	診療機能
救急医療	<ul style="list-style-type: none">・ 神戸市全体の3次救急を補完するため、民間病院では対応が難しい2次救急の中でより高度な診療機能を担う・ 重症化の恐れがある心血管疾患、脳血管疾患への対応強化により標準的な診療体制を構築し、地域医療機関との連携のもと、中等症救急搬送を市街地西部内で完結させる
小児・周産期医療	<ul style="list-style-type: none">・ 市街地西部で唯一の総合的な小児・周産期病院として、診療機能を堅持・強化し、地域の活性化に寄与する
感染症・災害医療	<ul style="list-style-type: none">・ 新興感染症への対応のため、第二種感染症指定医療機関と同程度の機能・体制を確保する・ 長田区内で唯一の災害対応病院として、大規模災害時にも診療機能を継続するため、医療スタッフやインフラ、トリアージ等のスペースを確保する
がん	<ul style="list-style-type: none">・ がん治療の機能強化により、市街地西部内での治療の完結率を向上させ、地域住民の通院治療の負担軽減及び就労者の治療支援につなげる（放射線治療機能の導入検討など）
脳卒中・心血管疾患	<ul style="list-style-type: none">・ 地域医療機関との連携のもと、複数疾患を持つ高齢者の増加に対応するため、総合的な診療機能を向上させる

(3) 必要な規模

市街地西部の中核病院として安定的に急性期医療を提供するとともに、新興感染症への対応等を強化する必要があるため、現在（358床）と同程度の病床数を確保します。

また、1床あたりの面積は、医療の高度化や複雑化に対応し、神戸市全体の3次救急を補完するため、中央市民病院や西神戸医療センターと同程度の約100㎡を確保します。

4 建設予定地

神戸市長田区若松町6丁目及び日吉町1丁目 若松公園の一部

《立地の考え方》

- ① 入院から通院治療への移行傾向も踏まえ、駅やバス停などの公共交通機関に近い立地とすることで、移動が困難な高齢者や働きながら通院する患者など、多くの市民にとって利便性の向上が期待できる。
- ② 災害時において診療機能を継続するため災害リスクの低い立地であり、公園との一体的な整備により大規模災害時などの非常事態の際に公園部分を活用し、トリアージや医療スタッフ受入れ等のスペースを確保することができるなど、防災機能の強化が期待できる。
- ③ 鉄人28号モニュメントをシンボルとした地域密着型の急性期病院として、地域住民が利用できる交流施設の整備や公園機能の再構築を行うことで、地域社会と地域医療をつなぎ、にぎわいのある憩いの空間づくりが期待できる。
- ④ 病院整備による昼間人口の増加（医療従事者を含む1日あたり約2,000人）や小児・周産期医療の安定的な提供（出産・子育て支援、病児保育の実施等）により、新長田駅前の拠点性の強化や若者の移住促進が期待できる。

※ 病院の建物規模は、1床あたり約100㎡の面積を確保できるよう今後検討します。

位置図



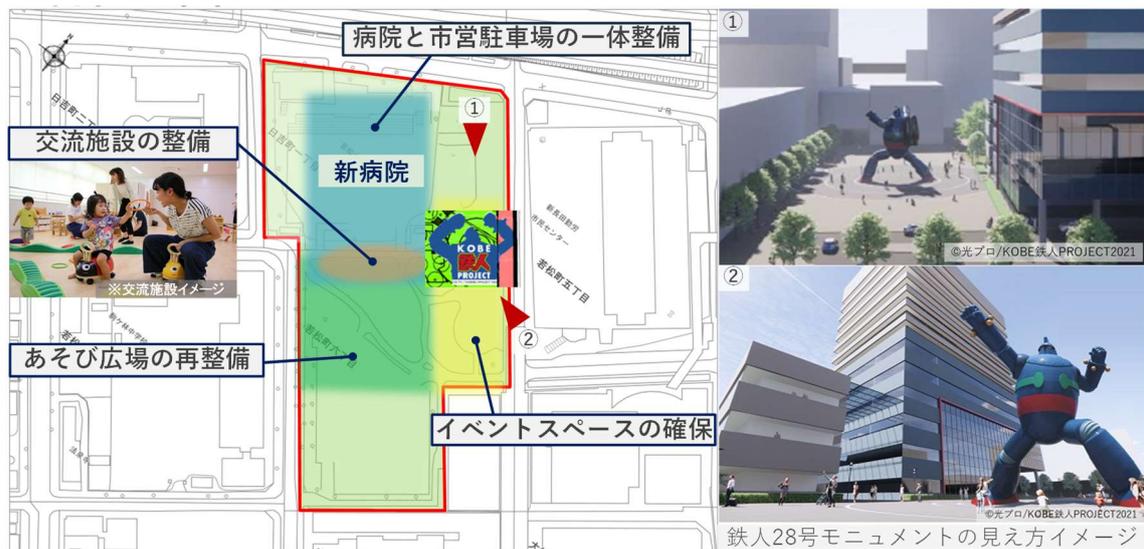
※ 現在の西市民病院から、西側へ約 1.5 km 移動します。

建設予定地イメージ



※ 建設場所はイメージであり、公園や市営駐車場機能の再編・代替計画によって変わる可能性があります。

若松公園リニューアルのイメージ



※ リニューアルのイメージであり、医療機能の検討や、公園・市営駐車場機能の再編・代替計画によって変わる可能性があります。

5 今後の検討事項

今後新病院の整備にあたっては、有識者会議の報告書や市民の意見を踏まえるとともに、以下の項目について引き続き具体的な検討を行います。

- ・ 公園及び市営駐車場の再編及び代替機能の確保
- ・ 交通アクセスの検討（市バス路線の見直しなど）
- ・ 財務シミュレーションや高度医療機器導入の際の採算性の検証
- ・ 近年の傾向を踏まえた設計・工事等の発注方式等の検討
- ・ 現病院跡地の利活用方法の検討

6 スケジュール（予定）

令和3年6月	基本方針（案）について市民意見募集
令和3年度	基本方針の策定
令和3～4年度	基本構想の策定
令和4～5年度	基本計画の策定
令和5年度～	設計・工事
令和11年度頃	新病院開院（開院まで現病院の運営は継続）